

校長通信 (第1号)

令和8年4月8日
東京都立田無高等学校
校長 長嶋 浩一

1 ごあいさつ

校長の長嶋浩一です。着任3年目、校長としては12年目になりました。

今年度、本校では、魅力ある学校づくりを推進するため、都の教育施策のうち、主に以下の3事業を活用します。

- 海外学校間交流推進校(オンライン等による海外の学校との交流、2年目)
- 外部検定試験実施校(英検 S-CBT 方式の全員受験、2年目)
- 探究的な学び推進事業【TIPS-Type4】対象校(外部人材の活用、2年目)

皆様におかれましては、本校の教育活動を温かく見守っていただくとともに、御理解・御協力の程、よろしくお願い申し上げます。また、本校ホームページでも、随時学校の様子をお知らせしてまいりますので、御覧いただければ幸いです。



2 第1学期始業式 校長講話(要旨)

本校では、昨年度から「海外学校間交流推進校」「外部検定実施校」の指定を受けており、英語学習に力を入れるとともに、国際理解教育を推進しています。

具体的には、次のとおりです。

昨年度同様、東京都教育委員会の受験料補助を受け、皆さん全員に外部会場でコンピュータを使い一日で4技能の検査ができる、英検 S-CBT 方式の受験をします。3年生は6月中旬に、2年生は12月に、1年生は来年の1月、外部の指定された会場で受験してもらいます。昨年度は、中々思うように申し込むことができない人もいたため、今年は**全員が平日の午後3時から受けられるように会場を確保**しました。可否だけでなく、英語4技能の総合力をスコアやCEFRのレベルで測ることができます。

6月に校内で実施していた従来型の英検については、今まで通り有料で希望者を対象として学校で受付を行います。英検の受験により皆さんの英語力が客観的に証明され、多くの大学等の受験においても活用されています。今まで以上に、皆さんの英語力向上に力を入れていきます。昨年度よりも高いスコア、CEFRのレベル向上を目指して頑張ってください。私たち教職員も応援していきます。

なお、今年から受験会場にて**厳格な本人確認を行うため、写真の貼ってある生徒証を提示することが義務付けられているので、なくさずに携行するよう**にしましょう。

今年の3月には、たくさんの外国の方に御来校いただき、今の3年生が次に希望者を対象として、少人数でのグループワークを行いました。このような取組は、今後さらに拡充していく予定です。

昨年秋には、希望者を対象とした Tokyo Global Gateway での語学研修を実施しました。今年度は1年生全員が1月に半日コースの研修を実施します。

3年生の皆さん、いよいよ最終学年です。昨年度、皆さんは修学旅行や総合的な探究の時間を中心

に、様々な問いを立て、考察し、プレゼンテーションを行うことを通して、視野を広げ、見聞を深めてきました。今年度は、いよいよ、進路決定に向け、自分自身が何を学び、どう生きていくべきなのか、答えが一つでない問いに対する答えを求めていくことになります。共に学ぶ仲間とともに、最後の1年間を中身の濃いものにしていきましょう。例えば、昨年度の後半に取り組んだ、地域探究を発展させて、社会を元気で幸福にするための具体的方策を提言できるよう、大学でさらに深く学ぶことが考えられます。そこで、本校では、今年から地元西東京市にある、**武蔵野大学ウェルビーイング学部**の先生とも連携を図っていくことにしました。ウェルビーイングについては、昨年度の修了式で一度お話ししました。この1年間は、ただ、何となく過ごすのではなく、自分自身の生き方・在り方をしっかりと見極めるよう努めていくことが大切です。時には壁にぶつかることがあるかもしれませんが、大切なのは、「諦めない心」と一歩を踏み出す勇気です。努力はすぐに結果として現れなくても、必ず未来の自分を支えてくれます。この一年は、自分の可能性を信じ、自分を超越する飛躍の年にしてください。皆さんの努力が実を結び、素晴らしい未来へ繋がっていくことを信じています。

2年生の皆さん、入学して1年が過ぎ、いよいよ後輩を迎えることになりますね。2年生は、学校の中心であり、学業、学校行事、部活動、生徒会活動等において主要な立場に置かれ、取り組む多忙な日々を過ごす人も多くなることと思います。

この一年は皆さん自身の可能性を広げるチャンスです。今の努力が来年の自分を大きく成長させます。今やるべきことに全力で取り組みましょう。困難なこともあるかもしれませんが、一歩を踏み出す勇気が、皆さんの未来を変えていきます。今までは上級生の後をついていけば何とかなっていたかもしれませんが、しかし、明日からはそうとばかりは言ってられません。先輩として見習うべき品位と行動が求められます。新入生たちは皆さんの姿をよく見えています。後輩に頑張る逞しい先輩の姿を見せてあげてください。

また、皆さんは、昨年度、先輩方が取り組んできたように、大学での学問探究や地域探究に取り組むことになります。先輩たちの学びをさらに深め、思考力・判断力・表現力を高め、社会に貢献できる資質能力を向上させていくことを期待しています。

今年一年が、皆さんにとって有意義なものになるよう、私たち教職員一同、全力でサポートしていきます。共に素晴らしい一年を作り上げましょう。

③ 第44回入学式校長式辞

春の訪れとともに、桜の花が美しく咲き誇るこの佳き日に、多くの御来賓の皆様、保護者の皆様の御臨席を賜り、令和八年度 東京都立田無高等学校第四十四回入学式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。御臨席の皆様方に心より御礼申し上げます。

只今、呼名の在りました三百十七名の入学を許可いたしました。新入生の皆さん、御入学おめでとございます。皆さんは厳しい入学者 選抜を見事突破し、本校への入学を果たしました。今までの努力を称え、心から入学を歓迎いたします。

本校は、「田無市に都立高校を開設してほしい」という旧田無市民の熱い思いを受け、昭和五十八年に開校し、今年度、第四十四期生を迎えます。地域の皆様や諸先輩方の御協力・御支援を受け、

これまでに一万二千七百六十人が本校を卒業し、社会の各分野で活躍しています。

本校は、校訓として、叡智、敬愛、剛健、自律の四語を掲げています。

叡智とは、知性と創造力、敬愛とは、互いの人格尊重、思いやりと協力の精神、剛健とは、鍛え抜かれた身体と豊かな情操、自律とは、自らの正しい判断及び勇気と責任ある行動を指しています。

また、本校では、「グローバル社会に対応し、多様な人々とコミュニケーションがとれる人間」、「高度な情報を活用する能力を有し、自他を尊重し社会に貢献する意欲を有する人間」の育成を目指し、

- ・課題を発見し、根拠をもって考察する力
- ・自他を理解し、協働して価値を創造する力
- ・データ活用とICTを使いこなし、学習成果を言語化する力
- ・グローバル社会で通用するコミュニケーション力(英語・探究発表)
- ・自ら目標を設定し、進路を切り拓く力 の育成に力を注いでいきます。

新入生の皆さんには、次の三点を意識して学校生活を送ってもらいたいと思います。

第一に、「良き習慣を身に付ける」ということです。社会生活の基本となる、良き習慣の一つとして、「時を守り、場を清め、礼を正す」ということがあります。時を守るとは、遅刻をしない、学習時間を確保するなど。場を清めるとは、きちんと掃除をする、整理整頓をするなど。礼を正すとは、服装をきちんとする、挨拶をするなどです。「時を守り、場を清め、礼を正す」という社会生活の基本がきちんと出来て、良き習慣となるように日々努力していきましょう。

第二に、「思いやりの心をもつ」ということです。他人を思いやることは、自分を見つめ直すことにも繋がります。思いやりの心をもつことで、お互いに助け合う友達の輪ができます。そして思いやりの心は行動のエネルギーにもなります。本校で思いやる・思われる、何でも話し合える、そんな友達を見つけてください。高校時代の友達は、掛け替えのない一生の宝となります。

第三に、「何事にも積極的にチャレンジする」ということです。具体的には、学習・部活動・委員会活動等に積極的に参加することです。世の中には 困難なこともたくさんあります。うまくいくこともそうでないこともあるでしょう。大切なのは、結果だけではなく、そこに至るまでのプロセスです。成功すれば、それは達成感や自信につながるでしょう。成功からだけでなく、失敗から学ぶこともたくさんあります。悔しい思いをし、二度とそのような思いをしないよう、考え、工夫し、改善を図っていく。まさにその過程こそが、将来皆さんが社会の中で生きていくのに必要な、「不撓不屈」の精神を身に付けることに繋がるのです。

保護者の皆様にも、お願いしたいことが三点ございます。

第一に、ご家庭のサポートです。高校では全校で一人一台端末を使用した学習を行っております。学校では様々な形で活用を図っておりますが、自宅での学習においても使用することがしばしばあります。ご家庭におかれましても、WiFi環境を整えてください。また、学校での学びを支えるために、家庭での学習時間確保のため、サポートをしていただきますよう、お願い申し上げます。

第二に、お子様とのコミュニケーションの時間の確保です。学校での出来事や連絡事項、将来の夢、スポーツ、文化、政治、世界情勢、趣味等、どんなことでも結構ですので、できるだけ多く、お子様と対話する時間を作って いただくということです。その際には、指示や注意をするだけでなく、大人になりつつある子供の気持ちや考えを受け止め、話し合うことに重点を 置いた御対応をお願い申し上げます。

第三に、学校との連携です。学校との連携を密にし、必要な情報を共有してください。お子様の学習状況や健康状態について、学校に適時に御報告いただくことで、より適切な対応が可能になります。

本日から、保護者の皆様と我々教職員は協働してお子様の教育に携わることになります。そのためには保護者の皆様と我々教職員との信頼関係を基盤とした連携が不可欠です。本校の教育方針についての御理解と御協力をお願いします。何かお気づきのことや心配事がございましたら、学校に御連絡をいただければ幸いです。

結びに、新入生の皆さんの充実した高校生活を願い、式辞といたします。

令和8年4月7日

東京都立田無高等学校長 長嶋 浩一

4 ウェルビーイング(Well-being)とは

昨年度の終業式でもお話ししましたが、改めてここで解説します。

ウェルビーイング(Well-being)とは、人が「よく生きている状態」「心身ともに満たされ、社会的にも良好な状態」を指す概念です。単に病気がない、問題がないという状態ではなく、生活の質(QOL)が高く、本人が幸福や充実感を感じられていることを重視します。英語での定義を見てみましょう。

1. WHO(World Health Organization 世界保健機関)の定義

“Well-being is a **positive state** experienced by individuals and societies, determined by social, economic and environmental conditions.”

「ウェルビーイングとは、社会的・経済的・環境的な条件によって規定され、個人および社会によって経験される**前向きな状態**である。」

“It encompasses **quality of life** and the ability of people and societies to **contribute to the world with a sense of meaning and purpose.**”

「それは、生活の質(QOL)に加え、個人や社会が**意味と目的意識**をもって世界に**貢献する力**を含むものである。」

2. OECD(Organization for Economic Co-operation and Development 経済協力開発機構)による定義

“Well-being is about **how people’s lives are going.**”

「ウェルビーイングとは、人々の生活が**どのような状態にあるか**ということを指す。」

“It **focuses on** people’s quality of life and the conditions that shape both present and future well-being.”

「それは、人々の生活の質(QOL)と、現在および将来のウェルビーイングを形づくる条件に**着目する**ものである。」